

佐賀県佐賀市

## 食品工場から廃棄される卵殻を利用し、ゼロ・エミッション社会をめざす

社長がカステラ屋を訪問した際に大量に廃棄される卵殻を見て「もったいない」と、2003年に創業。食品工場から廃棄される卵殻を回収、乾燥、粉碎し、スポーツ用白線、チョーク原料、すべり止め（ロジンバック）等を製造販売。ロジンバックは大手スポーツメーカーにも採用され、国内のシェアは7、8割を占める。近年、卵殻の吸湿性を活かした機能性壁紙の製造も行い、ゼロ・エミッション社会の実現に向け取組を進めている。

●所在地	佐賀県佐賀市鍋島町大字蛸久1539-1	●設立	2003年
●電話/FAX	0952-30-0702/0952-30-0703	●資本金	7,875万円
●URL	http://green-21.com/	●従業員数	13人
●代表者	代表取締役 下 浩史		



### JICA事業としてベトナムで大学と農業用有機石灰の試験中

2018年のJICA企業提案型事業に採択される。安心・安全な高付加価値野菜への需要が高まっているベトナムで農薬、化学肥料を同社の卵殻原料の農業用有機石灰に置き換えるため、ベトナム国立農業大学と共同で土壌改良試験を実施中。同社の卵殻乾燥粉碎機を現地の食品加工工場に設置し、現地で生産、現地肥料商社のチャネルで販売をめざす。また、東京オリンピックで競技種目となったボルダリングで使用する卵殻粉配合のクライミング用チョーク“GRASP”は欧州・北米・台湾への輸出を考えている。



ベトナムで土壌改良試験を実施中

### 全国の食品工場で生産、学校に販売する地産地消モデルを構築

キューピーたまご等、全国7か所の工場に卵殻乾燥粉碎機をレンタル・販売。工場生産した卵殻粉を地域の学校にライン材として販売し、地産地消モデルを構築。全国の小中学校約1,500校、幼稚園保育園約1,800校、高校・大学約350校に販売。卵殻を使用したライン材は1袋(20kg)で4,000個の卵殻を使用。従来品と比較し100mラインを引くと、車の走行距離34km分の二酸化炭素排出量の削減効果。子供達への教育上もわかりやすい製品・リサイクルとなっている。



全国の食品工場で卵殻使用製品を生産

### 卵殻膜にも着目し、共同研究開発で高付加価値商品を開発

卵殻部分と内側に付着する卵殻膜を分離。卵殻部分は、ひよこが呼吸をするための無数の穴があいているという特徴を利用し、吸湿性に優れた漆喰、タイル、壁紙を開発。壁紙はテレビで取上げられ社会的にも注目。また工業用原料としてタイヤの添加剤、プラスチック代替材料等にも利用されている。卵殻膜は、タンパク質、アミノ酸で構成されており、アレルギー体を消滅させて体に良い化粧品、農業用肥料を他社や国立大学と共同研究開発し、高付加価値製品へと商品群の展開に挑戦している。



壁紙はテレビで取上げられ社会的にも注目